



晩香廬(渋沢史料館)



旧古河邸洋館・洋風庭園

重要文化財旧渋沢家飛鳥山邸(旧渋沢庭園)と名勝旧古河氏庭園(都立旧古河庭園)

【2人の実業家の自邸】

東京の北郊に位置する北区は、千川上水などの水利もあり、明治期に製紙や紡績をはじめ多くの工場ができました。このような北区は、明治・大正期に活躍した実業家とゆかりも深く、近代日本の発展に大きな功績を残した渋沢栄一(1840～1931)の本邸と古河財閥の3代目古河虎之助(1887～1940)の邸宅があります。

【建物と庭園を造った人々】

「暖依村荘」と名づけられた旧渋沢家飛鳥山邸には晩香廬と青淵文庫の2つの建物があります。それぞれ、栄一の喜寿と傘寿を祝って贈られました。設計は清水組(現清水建設)の技師長を務めた田邊淳吉です。晩香廬は大正6年(1917)竣工のバンガロー風の木造平屋建てで、「喜」の文字をデザインした暖炉のタイルや、鶴をあしらった照明など祝賀の意をこめたデザインが目を引きまします。青淵文庫は大正14年(1925)に建てられた煉瓦・鉄筋コンクリート造の建物で、栄一の収集した図書などを納めるために造られました。窓に家紋の「丸に違い柏」をデザインしたステンドグラスをはめ込むなどやはり意匠をこらした建物となっています。

一方、旧古河氏庭園内には、ジョサイア・コン



青淵文庫(渋沢史料館)

ドル(1852～1920)の設計で大正6年(1917)に竣工した煉瓦造2階建ての洋館があり、1階に洋間を2階に和室を配するなど一つの建物の中で洋と和をまとめ上げていることが特徴です。台地から斜面を介して低地に広がる庭園は、台地部がコンドル設計の整形式洋風庭園となっている一方、低地部は近代庭園の名手「植治」こと7代目小川治兵衛の手になる、滝や池を配した池泉回遊式の日本庭園となっていて、地形に沿って洋から和へ移り変わる美しい景観が楽しめます。



日本庭園

【近代の文化財の魅力】

今回、旧渋沢家飛鳥山邸の建物と旧古河氏庭園は国の文化財に指定されました。近年、建造物や橋梁などの産業遺産をはじめ、明治時代以降の文化遺産も後世に伝えるべき優れた文化財と考えられています。ぜひ一度身近に残る近代の文化財の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

【問合せ先】

北区教育委員会生涯学習推進課文化財係 TEL 03-3908-9325
渋沢史料館 TEL 03-3910-0005
(晩香廬・青淵文庫建物内部の見学は渋沢史料館にお問い合わせください)
旧古河庭園管理所 TEL 03-3910-0394
(財)大谷美術館 TEL 03-3910-8440
(旧古河庭園の庭園については旧古河庭園管理所に、洋館内部の見学は(財)大谷美術館にお問い合わせください)